

### 3 個別のテーマについての検討状況

#### 1) 手術等における異物残存

報告された事故事例のうち、手術等における異物残存に関するものは平成16年10月から平成17年3月までの6ヶ月間で16件であった。このうち、5件の事例については個別医療機関に調査を行い情報収集した。

異物の内容としては、ガーゼ(2件)、縫合針(2件)、鉗子、金属プラグ、スプーン、開創器の部品、ネジ、義歯、義歯のブリッジ金具、カテーテル(2件)、ドレーン(2件)、アバットメント(インプラントに使用する装置)等、多岐にわたっている。遺残物には、手術に直接関係するものと、そうでないものがあり、手術に関するものを2つに類型すると、①本来手術野において手術操作を加える際に使用し、手術終了時あるいはそれ以前に手術野から取り除くべきであったが取り除き忘れたもの(ガーゼ、縫合針、鉗子)、②本来、体外あるいは手術野とは異なる場所で使用していたものが落下した、あるいは一部分解した等の理由により遺残したもの(開創器の部品、金属プラグ、スプーン、ネジ)に類型でき、それぞれに対し異なる対策が必要ではないかという議論が分析班においてなされている。手術に直接関係しない遺残物としては、歯科に関するもの(義歯、義歯のブリッジ金具、アバットメント)、チューブ類(カテーテル、ドレーン)があった。異物残存の原因としては、分析・検討作業の途中であるが、個別のさまざまな要因が相互に関連して発生していると考えられる。例えば、手術中あるいは終了時にそれらの異物の数を数え、間接的に遺残物のないことを確認する方法である。例えばガーゼカウント、機器カウントの方法の不備や、手術後のエックス線撮影により残存物の有無を確認する方法の不備やその実施の有無にばらつきがある事例が見られた。

分析班では、現段階で収集された情報に基づき、手術等における異物残存を予防する方策として、各医療機関において取り組むことのできる防止対策を検討するとともに、医療材料や手術用具といったモノの面からの改善といった単独の医療機関では取り組むことが難しいと考えられる対策等についても検討課題として分析・検討作業を行っているところである。

また、手術等における異物残存に関しては、さらに情報を収集するため、第15回のヒヤリ・ハット事例収集事業(平成17年1月~3月発生分・平成17年5月締切)の事例収集テーマとして設定したところである。このヒヤリ・ハット事例の収集により、異物残存を未然に防ぐことができた事例等の情報を収集し、異物残存の原因を具体的に特定することや、その防止策の策定に資することが期待できる。